

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M3140205	臨床検査学 (Clinical Laboratory Science)	専門科目 生命健康科学コース 専門分野

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	3	2	通年	金3・4・5	加藤 優子、文室 知之 内線： E-mail：

【授業の概要・到達目標】

一般検査の業務とされる尿、髄液、糞便検体に含まれる各種成分を物理的、化学的方法で検出することにより、患者診療・治療に有用な検査情報を得る実践的手法を修得し、検体情報を扱う医療倫理を涵養する。尿沈渣検査法や脳脊髄液（髄液）の細胞数算定・細胞分類法について学ぶ。尿沈渣成分、髄液の細胞成分や寄生虫について標本や写真を観察し、それぞれの形態学的特徴を視覚的に理解する。また、静脈血採血法や検体採取方法（鼻咽頭ぬぐい液等）による基本的な手技の修得も行う。

具体的な到達目標	ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. 各種検体の測定法や臨床的意義を理解できる。	○					
2. 健常と各疾患の検査結果の違いについて理解できる。	○				○	○
3. 尿沈渣の意義や疾患との関係性を説明できる。	○				○	○
4. 採血法や検体採取法の基本的手技について実施できる。	○	○		○	○	

【授業の内容】

1・2	静脈血採血法
3・4	演習（学内実習）採血（静脈採血シミュレーター）
5・6	演習（学内実習）採血（静脈採血、検体処理）
7・8	演習（学内実習）検体採取方法（鼻咽頭ぬぐい液）
9・10	尿検査の試験紙法
11・12	尿沈渣1（標本作製、鏡検・染色法）正常細胞
13・14	尿沈渣2（標本作製、鏡検・染色法）異常細胞
15・16	尿沈渣3（上皮細胞類）
17・18	尿沈渣4（塩類、結晶）
19・20	尿沈渣5（微生物）
21・22	尿沈渣6（円柱類）
23・24	尿沈渣7（その他の成分）
25・26	演習（学内実習）（未知の検体を用いた尿沈渣検査）検鏡・スケッチ
27・28	演習（学内実習）（未知の検体を用いた尿沈渣検査）診断カンファレンス（検査結果の解釈と評価）
29・30	演習（学内実習）採血（静脈採血シミュレーター）
31・32	演習（学内実習）採血（静脈採血、検体処理）
33・34	尿沈渣検査の内部精度管理
35・36	尿定性検査と尿沈渣検査の総合評価
37・38	髄液検査、喀痰検査、体腔液検査（その他の一般検査）
39・40	糞便検査（便潜血反応）
41・42	寄生虫学（寄生虫の分類と疾患との関係）
43・44	演習（学内実習）（寄生虫標本の観察）原虫類、吸虫類、条虫類（検査結果の解釈と評価）
45・46	演習（学内実習）（寄生虫標本の観察）線虫類、鉤頭虫類、衛生動物類（検査結果の解釈と評価）

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	予習、レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> ・一般検査学的の基礎を習得し、解析法を理解する。さらに実習を通してその原理を具象化する。 ・学生個々が考え、意見を述べる機会を頻繁に設ける。
B：意見の表現・交換	○	発問	
C：応用志向			
D：知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	実習書の事前学習 (20h)
事後学修	レポートの作成 (25h)

【教科書】

- ・三村 邦裕、宿谷 賢一（編集）『最新 臨床検査学講座 一般検査学』医歯薬出版株式会社、2016 年
- ・実習前に資料（実習書）を配布する。

【参考書】

- ・参考書は指定しない。

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4
定期試験	75%	○	○	○	○
レポート	25%	○	○	○	○

【注意事項】

【備考】

教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	加藤、文室（臨床検査技師）	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○	
教員以外の指導に関わる実務経験者	本学医学部附属病院の臨床検査技師	
実務経験をいかした教育内容	病院等において臨床検査技師および知識・技術に関する実務経験を生かし、実際の事例など取り入れながら講義を展開する。	
授業形態	対面	